

## カテ室業務に携わる看護師の放射線防護に対する現状調査

<sup>1</sup>財団法人 星総合病院、<sup>2</sup>財団法人 星総合病院國分 香代子<sup>1</sup>、折笠 幸子<sup>1</sup>、堤 雅紀<sup>2</sup>、黒岩堂 瑞穂<sup>2</sup>

【目的】カテ室業務における放射線防護に対する現状を把握する【研究方法】対象:ICU看護師27名、調査期間:H24年6~7月、調査方法:質問紙を用い、放射線防護(遮蔽・距離・時間)に関して1.知識を問う問題15項目2.看護師が実際にどのように取り組んでいるか等を問う質問19項目を択一式と自由記載で構成し回答を比較検討する。病院倫理委員会の承認を得た上で、匿名性・プライバシーの厳守、参加の自由意思を文書で説明し同意を得た。【結果】1.問題15項目(15点満点)の平均点12±1.5点。2.遮蔽に関して:プロテクターを毎回着用100%、ネックガードを毎回着用11%時々26%つけない63%、防護ガラスを毎回使用19%時々81%、線量計を毎回装着19%時々33%つけない48%。距離に関して:毎回撮影時は距離をとる66%時々30%とらない4%。時間に関して:長時間の治療などで撮影の回数が増える時の自分への放射線被曝がとても気になる11%やや気になる37%どちらでもない11%あまり思わない37%全く思わない4%、患者への放射線被曝がとても気になる11%やや気になる55%どちらでもない15%あまり思わない15%、全く思わない4%。その他:身体への影響を考えるとカテ室業務を行うことに抵抗をととも感じる4%やや感じる19%どちらでもない26%あまり思わない41%全く思わない11%、放射線防護に関する教育を受けたことがある48%。【結論】放射線防護に関する個人間の知識と意識の差を埋め、看護師の被曝低減に向けた実践的教育を継続して行うことが必要であると示唆された。